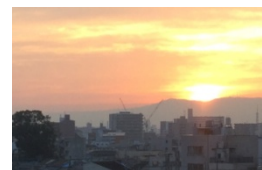


## 2018年を振り返る

38年ぶりの大阪暮らしにも慣れ、退職後の名古屋時代と比べ積極的に行動するようになった。自宅ベランダから朝日、夕日を眺めるのが日課となり、「定点観測」して写真を撮ってきた。毎朝3時過ぎには起き、レポートを書き発信してきた。嬉しいことに大阪の読者、仲間も増えてきた。



今年一番の思い出、衝撃を受けたのは、6月25日の福島第一原発事故現場である。写真は破壊された原子炉建屋を眺める私。



宮本憲一先生ご夫妻や若い仲間たちと、駆け足で福島を視察したが、原発事故から7年3ヶ月の「現実」をこの目で確認できた。7月28日から2日間、福島大で開催された「原発と人権」集会に参加して、30日には石巻、女川まで足を伸ばした。ここでも、震災復興の厳しい現実をあらためて知った。

原発事故については、1月27日に大阪の「公害環境デー」で、原発賠償関西訴訟の原告の個々目に迫る訴えを聴いた。福島から母子避難している人である。それから裁判傍聴に出かけ、「傍聴記」を書いてきた。大阪に来てから、なんだか前向きになり、集会や研究会などに出かけ、発言するようになった。これも恩師、宮本憲一先生にお会いする機会が増え、刺激と元気をもらっていることが大きい。毎月、京都での研究会に参加して、先生の横に座って発言し、先生の鋭いコメントに耳を傾けている。



9月15日～16日に愛知県刈谷市で開催された写真の「高校集会」全体会の司会をつとめたことも忘れがたい。会場中央で林京香さんがじっと耳を傾けてくれたことも嬉しい思い出。障害をもつ子や家族との交流も広がった。なんとか司会の大役を無事につとめられ、私自身も自信がついた。

大阪に来て、とりわけ腹が立つのが「維新政治」である。しつこく大阪市つぶし＝大阪都構想を推し進めつつある。そんななかで、2025年万博が日本・大阪に誘致されることになった。21年前に愛知万博誘致が決まった頃を思い起こしながら、レポートを書いてきた。私の講演を聴いた毎日新聞の記者が、



長いインタビューをもとに記事を書いてくれた。朝日新聞の「声」にも投書して、久しぶりに掲載された。私の「声」が多くの人に届いたようだ。愛知万博に続いて、「大阪カジノ万博」にも長い間、付き合い合うことになりそうだ。元気で頑張らなくては。

(2018年12月31日)